

目次

令和二年度役員	2
部長として 奥田 以在	4
球友会会長として 田村 好司	4
監督として 手塚 整廣	6
主将として 丸井 博実	7
新球友によせて 井浦 史暁	8
全日本大学軟式野球連盟概要	9
随想	10
四回生終身成績	26
2019年度秋季リーグ	28
2019年度新人戦	34
第36回西日本大会	35
メモリアルスナップ	39

軟式野球部規約・公式大会登録に関する規定 44

球友会 各位 50

球友会会計報告・特別寄付 51

球友会会則 54

編集後記 58

球友会会員及び現役名簿 59

「新球友」第四十号発刊にあたって

新球友もおかげさまで第四十号をむかえることができ、発刊に際しましては球友会の皆様はもとより、他大学の方からもご寄稿を賜りましてありがとうございます。ありがとうございます。

我が軟式野球部は昨年、全日本大学軟式野球選手権大会ベスト4、西日本大会優勝という優秀な成績を残しました。また、球友会は60周年を迎え記念すべき年となりました。今年丸井主将の下で、昨年の成績を超えるべく努力を重ねましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により春季リーグや全日本大学軟式野球選手権大会が中止となり、練習も満足に行えない中、秋季リーグを迎えることとなりました。現在、秋季リーグ2位が決定しており、西日本大会の代替大会である西日本記念大会に向け日々精進しております。

今後とも先輩諸兄にはご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、変わらぬご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いたします。

2020年度軟式野球部・球友会役職一覧

軟式野球部			
	スタッフ		
	部長	奥田 以在	
	監督	手塚 整廣	S56
	コーチ	(岩佐 拓己)	(H14)
		(藤森 稔人)	(H18)

球友会(OBOG会)			
役員			
役員会	会長	田村 好司	S53
	副会長	小林 宏行	S56
		大倉 広継	S56
監査役		木下 幸典	S51
		柴田 嘉宏	S61

現役員				
役員会	幹部会	主将	丸井 博実	3回生
		副主将	古谷 将太	3回生
		〃	川邊 祐大	3回生
		主務	川端 大介	3回生
		会計	藤原 唯輝	2回生
		連盟	松井 龍一	3回生
	渉外	吉田 旭浩	3回生	
	ホームベース担当	水田 大晴	3回生	
	道具担当	長 拓矢	3回生	

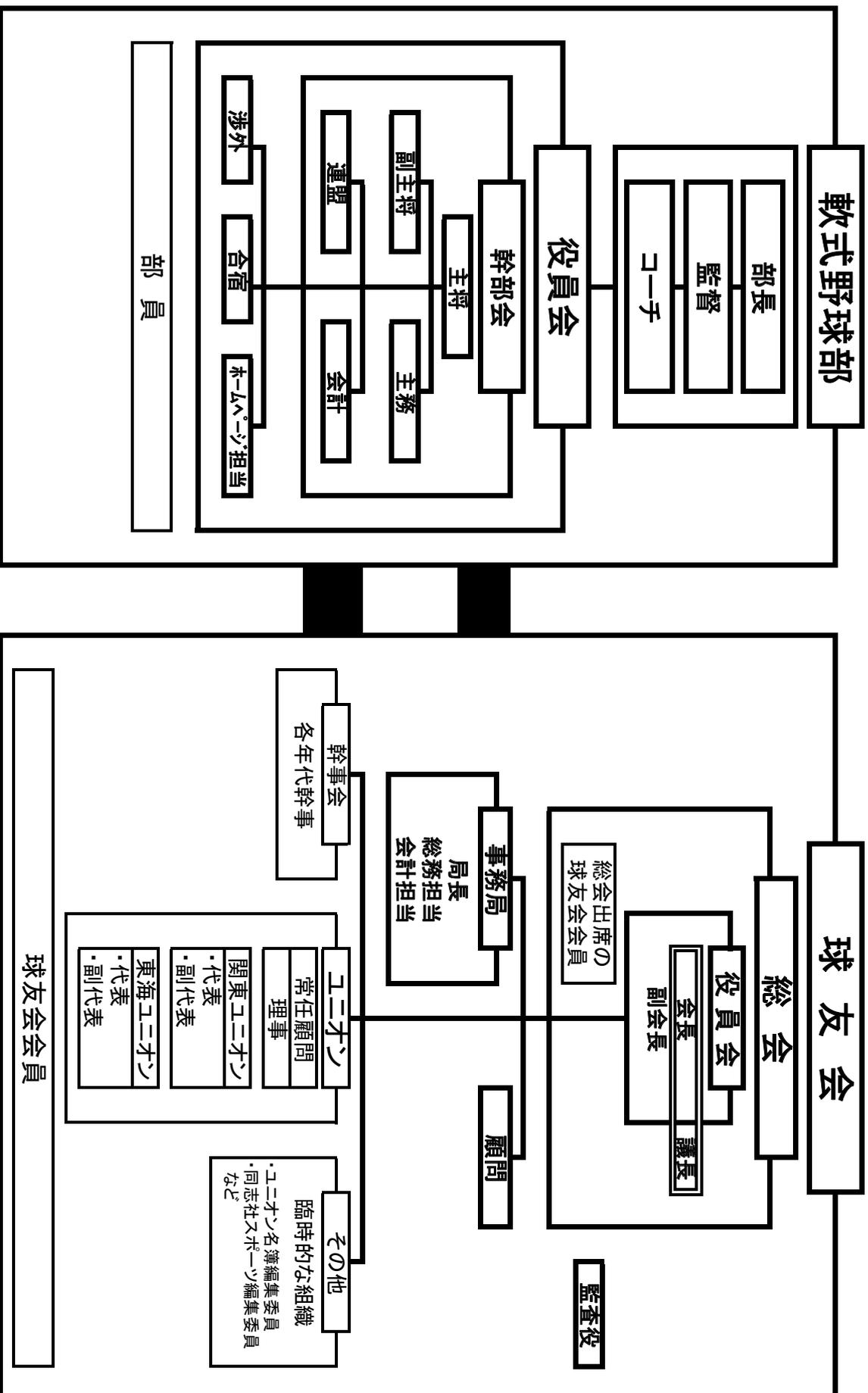
事務局		
事務局長	鈴木 勝也	H15
会計担当	岩佐 拓己	H14
総務担当	三本木 秀樹	H23
	林 智之	H25
	神所 祐希	H27
顧問	(手塚 整廣)	(S56)
	長谷川 利通	H9
	藤森 稔人	H18

スポーツユニオン		
常任顧問	塚本 幸雄	S46
理事	田村 好司	S53
理事	廣田 憲司	S43
理事	安田 一夫	S43
理事	井垣 篤司	S54
理事	平山 正則	S58
理事	長谷川 利通	H9
理事	岩佐 拓己	H14

関東ユニオン代表	坂下 雅弘	S59
〃 副代表	川上 晋	H12

東海ユニオン代表	平山 正則	S58
〃 副代表	岩田 拓朗	H18
〃 副代表	牧原 光章	H21

同志社大学体育会軟式野球部・球友会組織図



ご挨拶

部長 奥田 以^{いあり}

同志社大学体育会軟式野球部球友会の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素から多大なご支援とご声援を賜り、厚く御礼申し上げます。

御承知の通り、この春から夏にかけて、新型コロナウイルス感染症の影響により、大学全体が大きな影響を受けるなか、体育会をはじめ、サークル等も活動できない状況にありました。しかし、現在（二〇二〇年九月時点）は試行期間として活動することが認められ、公式戦にも出場できることから、秋季リーグを戦っております。

この間、現幹部にとつては非常に苦しい時間だったと思います。野球が出来ない苦しさに加え、その状況下での部の管理・運営、連盟の運営など、判断が難しく、未経験の事柄に悩んだことと思います。その分、いまのリーグ戦はたまらなく嬉しい時間になっているのではないのでしょうか。

この新型コロナウイルス感染症は、講義にも多大な影響を与えました。同志社大学では、今春はオンライン講義に統一したため、教員も学生も変化への対応を求められました。私もオンライン講義ということで、大規模クラスについては詳細なテキストを付した講義資料を作成して閲読できるようにしました。一方、ゼミなどの小規模クラスは、コミュニケーションの重要性からZoomミーティング等を用いて講義を進めました。

オンライン講義は、遠方の学生の参加のしやすさなどメリットも感じましたが、学生は一人で資料や動画などに向き合うことの大変さを感じて

いたようです。そして、対面での他愛もない会話ができないことを寂しく思っているように感じました。

ところで、春学期に多くのレポートを読む中で、色々と気が付いたことがあります。特に気になったことは、段落分けをしない学生が非常に多いということです。実際に、一〇〇〇字の課題を一段落で書いて来る学生が多数いました。そのため、接続詞も使えていません。これまでの教育では、この書き方で罷り通ってきたのだと思います。こういう文章が、この数年で極端に多くなったように感じています。教育に携わるものとして、このことを大変に危惧するとともに、社会全体で学生を鍛えるという優しさを持つ必要性を感じます。

軟式野球部では、監督、コーチをはじめ、支援して下さる皆さまが、学生の自主性を重んじつつも、考える機会を適切に設けて下さっています。お陰さまで、学生が着実に成長しているように感じしております。今春は対面での指導ができず、監督もコーチもご苦労が絶えなかつたわけですが、その中でも丁寧に指導頂き、感謝申し上げます。

大学生にとつてはまだまだかなり窮屈な日々が続きますが、早く大学と社会に穏やかな日常が戻ることを願うとともに、皆様のご健康を祈念して、挨拶とさせていただきます。

今後とも同志社大学体育会軟式野球部へのご支援とご声援をよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶

球友会会長 田村 好司

同志社軟式野球部球友会会員並びに現役部員の皆様にはご健勝で活躍のこととお喜び申し上げます。日頃より球友会へご支援ご協力いただき誠にありがとうございます。

今年は新型コロナウイルスによる感染が世界的に拡大するという今までに誰も経験したことがない、また、未だに先行きが見通せない不安な状態が続いています。大学も構内への立ち入りもできず、オンラインによる授業が続いています。秋学期から対面授業再開のニュースも出てきていますが、まだまだ予断は許さないようです。課外活動も3月の合宿が中止となり、4月から6月末まで自粛で練習すらできない状態でした。ようやく7月から練習が認められ活動を再開しましたが、春季リーグ戦及び全国大会も中止となりました。秋季リーグ戦は関西学院が参加できなくなりましたが、何とか1校で9月1日から始めることができました。西日本大会などは今のところ未定の状態です。今まで練習やリーグ戦があることは当たり前のことでしたが、それがなくなるという状況で現役学生もかなり苦慮したことを思います。誰も経験したことがないことを経験したとプラス思考にとらえ、今できることに同志社大学の学生らしく全力で取り組んでほしいと思います。

球友会の活動においても、新型コロナ感染拡大防止の観点から夏季の総会は中止とさせていただきます。関係者のみで決算などの確認を行いました。また、秋のOBOE戦及び懇親会も中止とさせていただきます。来

年は通常に開催できることを願っております。また、昨年は1959年に軟式野球同好会として発足し30周年に当たり記念の祝賀会を開催させていただきました。偶然に当日が西日本大会の決勝となり見事優勝という花を添えてもらい無事祝賀会を終えることができました。他部のOBOE会長からも良かったとの声をいただくことができました。本当に開催してよかったです。

また、今年も同じことを書いてしまいますが、今年も大雨や台風による大きな被害が全国各地で発生しています。「線状降水帯や記録的短時間雨量」、「命を守る行動を」、「今までに経験したことがない」などの言葉をよく耳にします。本当にいつどこで起こっても不思議ではないと感じています。最近では雨が強く降り出すとPODで雨雲レーダ情報を見てもまいます。避難指示や避難勧告などが自治体から発せられますが、最後は個人の判断になります。自治体で作成しているハザードマップなどを確認し、この地域でどういう災害が発生する可能性があるか、日ごろから避難などの対応を考えておく必要があると思います。

私事ですが、昨年4月に退職し農業(米作り)をしています。時間の調整はし易いのでできる限り試合には行くようにしています。試合が平日で難しいとは思いますが、OBOEの諸兄も球場へ足を運んでみては如何でしょうか。

今後とも軟式野球部及び球友会活動へのご協力及びご支援の程よろしくお願い申し上げます。同志社大学軟式野球部関係の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

ご挨拶

監督 手塚 整廣

同志社大学体育会軟式野球部球友会の皆様並びに現役部員の皆様にはますますのご健勝のこととお喜び申し上げます。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態が起こったため例年のような活動は全くできませんでした。

昨年の創部60周年記念式典では、当日行われた西日本大会決勝戦に於いて宿敵立命館大学を撃破し優勝報告が出来ました。

平井前主将から八田同志社総長・理事長に

優勝カップを手渡せて大いに祝典を盛り上げてくれました。

春季リーグ優勝、全国大会ベスト4、秋季リーグ2位、西日本大会優勝という輝かしい戦績を残した前チームの平井主将から、丸井新主将率いる新チームへと襷は引き継がれました。

新チームは新人戦の決勝戦で、立命館大学に勝利しました。そして、悲願の全国大会優勝を目指して新年度の練習を開始。そこに起こったコロナ感染症拡大のために活動が中止されました。

例年通りなら3月前半に行われる春合宿、全国大会出場をかけて戦う春季リーグ戦を含むすべての活動が出来ない期間が6月いっぱいまで続くことになりました。

学生たちも自粛生活を余儀なくされ、新年度の大学授業もリモートとなっていました。

練習や試合を通じてチーム力を増して成長していく姿を思い浮かべて

きましたが今年に限っては想像できません。ようやく大学から試行期間として活動が認められたのは7月からです。連盟としても秋季リーグ戦だけは開催すべく各校の連盟委員が奮闘してくれました。その結果、関西学院大学の参加は見送られることとなりましたが5大学で開催する運びとなりました。

現在、リーグ優勝に向けてチームは戦っている最中です。大好きな野球をできる喜びをグラウンドで表現してくれています。

3年生にとっては最終学年の活動が短いものになってしまいますが悔いのないような戦いを期待しています。

事あるごとに言われておりますが、コンプライアンスの問題です。チームとして行動している時と個人になった時では意識も違うでしょうが、常に同志社の名を背負う誇り高き体育会の一員であることを忘れず「野球もマナーも日本一」のチームであって欲しいと思います。

最後になりましたが球友会の皆様、平素より学生へのご支援、ご声援誠にありがとうございます。なにとぞ、末永くご支援のほどをお願い申し上げます。

一日も早い事態の終息をお祈りするとともに、安心して過ごせる日々が一刻も早く到来することを祈念いたします。

主将として

2020年度主将 丸井 博実

菊の香り漂う霜月を迎えました。同志社大学体育会軟式野球部の諸先輩方におかれましては、ますますご健勝のことと心よりお慶び申し上げます。

平井主将を中心とした昨年度のチームはまとまりがあり、仲は良いが練習中には厳しい声も飛び交い、チームとして非常に良い学年であったと記憶しております。個性の強いチームではありませんが、平井主将はじめ幹部を中心に時には楽しく、時には厳しく。そんな練習中でもプライベートでも一緒にいて楽しい先輩方の元、私たちが下級生は伸び伸びとプレーさせて頂きました。春季リーグでは延長タイブレークの末、劇的なサヨナラ勝ちで四年ぶりの全国大会出場を果たし、全国大会という華やかな舞台で三位という結果を収められました。また、秋季リーグでは最終戦で立命館に苦杯を喫し優勝は逃すものの、西日本大会決勝で雪辱を果たし、チーム一丸で見事優勝を成し遂げられた先輩の姿は、まるで昨日のことのように思い出されます。

このような全国大会、西日本大会ともに見事な成績を収められた後に新主将となった私の使命は先輩方の思いを引き継ぎ、「全国大会、西日本大会ともに優勝する」ということであります。目標を達成すべく、二月に自分達には何が必要なのかミーティングからスタートしました。「全国大会、西日本大会ともに優勝する」という目標に向け、チーム内での目標の統一、上位大会で勝ち抜くための個々の技術向上、チームワー

クの向上を目指し、練習に取り組んできました。

しかし、新型コロナウイルス感染拡大による影響を受け、四月より三ヶ月間活動自粛要請を受けるとともに、春季リーグ戦、全国大会が中止となりました。活動が再開したのは七月中旬でありましたが、練習時間の制限や練習中にも様々な制約が設けられ、思ったような活動はできずにいました。

また、秋季リーグも関西学院大学が参加を認められず五チームでの開催となりました。秋季リーグの上位大会である西日本大会も例年通りの開催はできず、今年度初めに定めた「全国大会、西日本大会ともに優勝する」という目標は達成できませんでした。この目標は次の代に成し遂げてもらいたいと思います。私たちは残された秋季リーグを優勝すべく日々精進して参りたいと思います。

軟式野球部での四年間は大変貴重なものであると考えております。野球技術の向上のみならず、社会における礼儀礼節、マナー、大学生だからこそ磨くことのできる主体性等社会で必要とされる要素を得られる時期であります。多くの方のご支援を賜りながらこのような素晴らしい環境で野球ができることに感謝し、残りの学生生活を実りのあるものにしていきたいと思います。

最後になりましたが、日頃からの多くのご支援を賜りまして誠にありがとうございます。我々軟式野球部の更なる発展のために今後とも多くのご支援、またご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

「新球友によせて」

立命館大学体育会軟式野球部 井浦 史暁

同志社大学体育会軟式野球部OBの皆様、初めまして立命館大学体育会軟式野球部主将の井浦史暁と申します。私は、前年のチームで全国大会、西日本大会出場を経験し、その後の新チーム始動で主将を務めさせていただきました。新チーム当初は、全国大会優勝をチーム目標に掲げ、日々の活動に励んで参りました。全国大会に出場するためには、関西六大学リーグで首位になることが必須であるため、常々最大のライバルと意識していた同志社大学さんとの対戦は特別な思いを持って、試合に臨んでいました。今でも同志社大学さんとの対戦は鮮明に記憶していますし、手に汗を握る熱戦の数々は私のかけがえのない思い出です。

対戦させていたただくなかで感じた同志社大学さんの強みは、一体感からなる組織力の高さであると思います。積極的走塁、緻密なサインプレーを含めた攻撃や、堅実な守備のレベルは非常に高いのもちろんのこと、チーム一丸となって戦う同志社大学さんには、試合の度に脅威に感じていました。特に、春季リーグ第二戦で延長の末、タイブレークで敗戦した試合を振り返ると、チームの一体感が自チームは劣っていたと感じ、敗戦の要因であると考えました。この試合を機に、組織力向上に向けて、チームのベクトルを合わせることに主将として取り組んで参りました。また、秋季リーグでは、同志社大学さんに勝利し、首位奪還を果たすこと

をチーム目標に掲げ、この目標がチームを奮起させる起爆剤となりました。このように同志社大学さんから学び刺激を受けることが多くあり、お互い切磋琢磨し合える関係性があつたからこそ、秋季リーグ優勝に繋がつたと思います。

私が二回生時、全国大会に出場させていただきました。その大会で関東勢との対戦し感じたことは、技術の高さでした。当時、対戦させていた白鳳大学さんはスタメンの1番から9番まで打力が高く、技術レベルの差を肌で感じました。その他にも、投手力、守備力ともにレベルの高さを痛感しました。例年、関東勢が上位である現状に対して、悔しい気持ちを持つと同時に、関西勢のレベルを上げなければいけないと感じました。そこで、立命館大学と同志社大学さんとで、関西勢のレベルの向上に貢献し、関西全体を引っ張っていく存在でありたいと強く思っています。

関西地区で開催となつた西日本大会の決勝で、同志社大学さんと対戦できたことは、非常に感慨深いもので、私自身の最大の思い出になりました。決勝戦での敗戦は、現在、日々活動する我々の原動力となっております。今後もし切磋琢磨し合い、ともに関西六大学リーグを盛り上げ、全国大会で優勝できるチームが生まれるよう精進して参りましょう。これからも良きライバルである同志社大学体育会軟式野球部さんの益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げ、挨拶とさせていただきます。この度は、ありがとうございます。

全日本大学軟式野球連盟概要

1)名称

全日本大学軟式野球連盟

2)代表

会長 不在（代行）松下 聡、北村 孝嗣

3)設立

昭和 53 年

4)事務局

東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-27-7 軟式野球会館 5F

TEL 03-3401-0824 FAX 03-3401-1842

5)加盟連盟(23 連盟)

北海道地区大学軟式野球連盟、奥羽地区大学軟式野球連盟、東北地区大学軟式野球連盟、北関東大学軟式野球連盟、東京六大学軟式野球連盟、東都大学軟式野球連盟、首都大学軟式野球連盟、東関東大学軟式野球連盟、南関東大学軟式野球連盟、関東新大学軟式野球連盟、東京新大学軟式野球連盟、東海学生軟式野球連盟、長野県大学軟式野球連盟、新潟地区大学軟式野球連盟、北陸地区大学軟式野球連盟、近畿学生軟式野球連盟、関西六大学学生軟式野球連盟、西都大学軟式野球連盟、京滋大学軟式野球連盟、中国地区大学軟式野球連盟、四国地区大学軟式野球連盟、九州地区大学軟式野球連盟、沖縄県大学軟式野球連盟

2020 年 10 月 1 日現在

以上

全日本大学軟式野球連盟(公式ホームページ)<http://www.junbf.jp/>より引用

軟式野球は日本発祥のスポーツであり、現在国内において多くの競技人口を抱えている。また、国内だけでなく世界でもアジアや中南米諸国へと競技の輪は広がりつつある。

京都は軟式野球の発祥の地である。大正 8 年に京都の「成徳尋常小学校」で軟式野球大会が初めて開催され、その跡地が今でも残っており「軟式野球発祥の地」という少年像まである。その当時、硬式ボールに至らなかった少年達はテニスボールで野球を楽しんでいたが、重量が軽くてスピード感が伴わず、耐久性も不足するなどの欠点があった。そこで安全かつ手軽に野球を楽しめるために今の軟式ボールが開発された。

大学軟式野球の目標として技術の向上、チームの勝利に留まらず、野球を通じて健全な精神豊かな人間性の育成を挙げている。今後軟式野球を通じて全国の学生が成長し、全日本軟式野球連盟を盛り上げてより良い連盟が築かれていくことを切に願っている。

連盟委員 松井 龍一

随 想

随想

商学部四回生 平井 隆太

指定校推薦の試験を通して知り合い、後に途中入部・退部することとなった浦田に誘われたことがきっかけで軟式野球部に所属することとなった。高校二年生秋季大会で岡山県を制し、中国大会では甲子園まであと一歩の所で戦犯となつてしまった私は野球に対して何とも言えぬ心残りがあつた。軟式野球という世間では未だマイナーなスポーツではあるが、必ずこのチームの中心選手として全国大会に行く、優勝するという強い思いの元、日々の練習に励んだ。

この部では新たな経験が多かつた。中でも一番は「主将」の経験だろう。今までせいぜい内野副リーダーくらいしか経験したことのない私にとつて、主将などできる自信はなかつた。しかし、一、二回生とベンチには入るも全国大会には一度も出場できておらず、その悔しさを思い出せば「このチームを勝てるチームにしたい」「私を主将に後押ししてくれた同期の期待に応えたい」という思いが湧き、不慣れながら一年間大役をやり通すことが出来た。

四年ぶりの全国大会で三位、西日本大会では六年ぶりの優勝を果たした主将となつたわけだが、なぜここまで勝つことができたのかは現在でもよく分かつていない。とりわけ自分にカリスマ性があったとも思えないし、これといった技術指導もできていない。また選手個々の力だけで言えば、昨年に比べ圧倒的に劣つていただろう。しかし、自分の中でこれだ、という要因があるとすれば、それは「一人一人が自分の役割を認知し貢献し

たから」であろう。勿論、試合となればスタメンで出れる選手、出れない選手、また試合にすら出られない選手もいる。しかし、公式戦九割の勝率を誇る中でどれだけ後者の役割が大事だつたことだろうか。グラウンドに出れば私の指示をしつかりと聞いてくれ実行してくれる選手、スタンドを見れば腐つてもおかしくない状況で必死に応援してくれる部員、見守つてくださる監督者、保護者の方々、毎試合当然のように球場に足を運んでくださる応援団、アトムスポーツ編集局の方々。野球ができる背景にはこういった様々な思い、応援、支えがあるからだと再認識することができた。体を張つたプレーや声でしかチームを引つ張れない私に、同期・後輩は本当によく付いてきてくれたと思う。特に副将の太田、横橋、主務の天内は私の見切れない選手をフォローしてくれ、他にも相談にも乗つていただいた先輩方、同期には頭が上がらない。勿論、良いことばかりではなかつたがこのチームで野球をすることができて、このチームで主将を務めることができて幸せであつた。

末筆ではありますが、奥田部長、手塚監督、塚本総監督、田村OBOG会長、藤森事務局長をはじめ諸先輩方には、多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心から御礼申し上げます。同志社大学軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念いたします。

随想

法学部四回生 太田 悠馬

大学では野球サークルに入り、緩く楽しく4年間を過ごそう。そう思つて同志社大学に入学した。様々なサークルの新歓に参加したが今までゴリゴリの野球部でしか活動しなかつたせい何か物足りなく感じた。そこから部活動の新歓に参加することになり、2つの選択肢で最後まで悩んだ。軟式野球部とポート部だ。ポート部の新歓では高校の先輩がいたこともあり熱心に勧誘された。しかし私は最終的に軟式野球部を選んだ。きっかけは友人に連れられ、練習会に参加したことだ。そこで学生主体での野球、チームの温かい雰囲気の魅力を感じた。そして何よりも大きかつたのがある男の影響だ。その日初めて会つた男が鬼のコミニケーション力で「俺たちの代で絶対全国行こうぜー」と熱く語ってくるのである。1年生のくせに勧誘する側のセリフを吐いていたのだ。そう。あの横橋史典だ。そして私は軟式野球部に入る決意を固めた。今になってあの選択は本当に正しかつたと思う。

高校時代はキャプテンを務めていたが、人に厳しくできない私は正直リーダーには向いていないと思つた。しかし合宿で同期のみんなが副キャプテンに選んでくれ、この1年は幹部として未熟ながらも自分に出来ることを尽くそうと決心した。チームとして全国という目標を達成するため練習量を増やした。夏休み中も他の大学生が遊んでいる中、必死に汗を流した。苦しいこともあつたが乗り越えられたのは同期の存在があつたからだと思う。横橋の弾丸トーク、井上のうんちく話、森川の天然つぶ

り、藤本の坊主頭、楽しいことがあつたからこそ乗り越えられた。そして春リーグを迎え、立命館との最終戦、チャンスで私に打席が回つてきた。それまで副キャプテンとして、1番バッターとして貢献できていなかった私にチームメイトみんなが声をかけてくれ後押ししてくれた。結果はサヨナラホームラン。みんなで泣きながら抱き合つたあの瞬間は一生忘れられないだろう。

幹部として苦しい時期もあつたがこの4人で最後までやり抜くことができて本当に良かった。そして最後までついてきてくれた同期のみんな、本当にありがとう。大学野球ではチームワークの底力を実感した。全国での東北福祉戦のように、実力では劣つていても各々がそれぞれの役割で全力を尽くすことで大きな力になる。後輩たちには先輩方が積み上げてきた学生野球の素晴らしさを忘れず、野球を楽しんでほしい。そして私もここで得たことを社会人として活かしていきたい。

最後になりますが、手塚監督、塚本前総監督、田村球友会会長、奥田部長をはじめとする多くの諸先輩方には多大なるご支援を賜りましたこと心より感謝致します。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈っています。

随想

社会学部四回生 横橋 史典

全国大会三位、西日本大会優勝、新人戦優勝、結果だけを見れば輝かしい成績が並ぶがこれまでの道のりは決して平坦ではなかった。私達の代は前年からレギュラーとして活躍する選手も少なく、お世辞にも期待されている学年だとは言えなかった。私自身も入部当初こそ「四番ファーストになる」と豪語していたものの現実には打席に立てばサードゴロの山。気づいた時には自動アウトというあだ名がついていた。しかし、同志社大体育会軟式野球部で求められているのは野球の上手さだけではない。学生主体という環境の中で一人一人が考え、それぞれの形でチームに貢献する事なのだ。状況判断が早い選手はランナーコーチとして得点に絡み、ユーモアがある選手はチームが落ち込んでいる際に悪い雰囲気を持ち拭くような声を出し、フォアボールを出すのが上手い投手はフォアボールを出してチームを盛り上げる。まさに「チーム最適」が求められているのだ。今年のチームはまさにこの「チーム最適」を体現していたと改めて感じる。試合中隣を見れば声が枯れるまでチームを鼓舞し続け、仲間の活躍を自分の事のように喜ぶ、そんな選手で溢れていた。後付けのように聞こえるかもしれないが、全国大会三位に終わったあの日、日本三位という結果にも悔し涙を流すチームメイトの姿を目にした時、実は私は西日本大会優勝を確信していた。そして、このようなチームで賛否両論ある中、自分に副主将という大役を任せていただいた事を大変光栄に思う。また、こんな素晴らしいチームを共に作り上げてくれた主将の平井

を始め、同期の仲間には感謝の言葉しか浮かばない。私はこの機会に自身の大学生活を振り返ってみたが、やはり思い返されるのは大学生活の全てを捧げてきた部活動の事ばかりであった。打撃の調子が悪く、悩み過ぎて眠れなかったあの夜、バイト終わりに月夜に照らされながら手の皮が剥けるまでバットを振った、という経験が全く無いのも今となってはいい思い出だ。大学の友達が多くがサークルや遊びに夢中になる中、大学生にもなつて夏休みも無く毎日のように白球を追いかけ続け、授業の空きコマを作つては汗だくになりながら三栖グラウンドに向かった日々を私は忘れない。バイトをしてもお金は合宿や交通費に消えていくし、旅行にも思うように行けない。そんな生活の中で私の唯一の支えとなっていたのが「日本一」を目指し、毎日苦楽を共にしてきた仲間の存在だ。私は、そんな仲間を大変誇りに思うし、めちゃくちゃカッコいいと思う。そして、この仲間と出会えた事が私の大学生活の中で最大の財産であったと確信している。これからは、それぞれが別々の道に進む事になるがたまには集まってお酒でも飲みながら思い出話に花を咲かせる、そんな一生の戦友であつて欲しいと願う。

最後にはなりますが、手塚監督、塚本総監督、奥田部長、田村OBOG会長、藤森コーチをはじめ、諸先輩方には日頃から多大なる御指導、御支援を賜りました事を心より御礼申し上げます。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

法学部四回生 天内凌将

熱くなれた4年間だった。正直、ここまで大学の部活で熱くなれるなんて思っていなかった。「全国大会に出たい。」「ホームランを打ちたい。」「高校時代に叶わなかった思いを実現させるために軟式野球部に入学した。そんな私であったが、入学して初の試合でいきなりホームラン。リーグ戦初打席でもホームラン。と順調なスタートダッシュをきった。当時の私は「大学の軟式野球って簡単やん。」と思っていた。そんな慢心していた私は年が明けた2回生のシーズンで苦しんだ。私は人数の多い外野手の中で埋もれてしまった。よく言われる言葉ではあるが、その時の悔しさがあつたから、今の自分があると心の底から感じている。年功序列の仲良しごっこじゃない。結果にシビアで、だからこそ熱くなれる同志社大学体育会軟式野球部に入学し、正解だった。

2回生の夏、自分たちの代の役職決めが行われ、私は主務になることが決まった。同時に、平井、太田、横橋との幹部が構成された。先輩方のようなチーム作りが自分たちにもできるのか不安で仕方なかった。主務の業務で手いっぱいになるときもあったが、時には平井を支え、時にはチームを統率した。「自分たちの代で全国に行く。」「学年全員が同じ思いだったからこそ、やり通せた1年間だった。一生忘れない、平成最後の春リーグ、立命館大学との2戦目。勝てば、悲願の優勝、全国大会出場だった。10回の裏、打者は太田。私は3塁走者から高々と上がった打球を眺めた。サヨナラスリラン。この瞬間に軟式野球部に入って成し遂げたいこ

とが実現した。手塚監督のもとに挨拶しに行くときも、幹部そろって恥ずかしいくらいに大泣きしていた。やっとの思いで行けた全国大会の1週間は最高だった。長野オリンピックピクスタジアムで思う存分暴れ回ることができた。そして、西日本大会の優勝も最高の思い出だ。幹部としてやってきた1年間を有終の美で飾ることができ、みんなが胸上げしてくれた時はとても嬉しかった。

本来、ここで引退すべきだったのかもしれないが、日本一になるチャンスがあるなら。そして何よりも後輩が好きなのだろう。まだ終われないというよりは、終わりがたくないという思いで現役を続行させてもらった。そして今最後のリーグ戦を楽しませてもらっている。最後まで力になるよ！こんな先輩を残らせてくれてありがとう！今ではあんなに怖がっていた後輩たちだとは思えない。(笑)

そして何より、同期のみんな。辞めたやつも多いし、いろんな揉め事もあつたけど、この15人で本当に良かった。ひとりひとりに感謝の気持ちも伝えたいけど、文字数の関係で割愛。一生繋がっていくだろうし、まあまた飲もう。4年間ありがとう！

末筆ではございますが、手塚監督、奥田部長、田村会長をはじめ、多くの先輩方にお世話になりました。4年間ご指導いただき、心より御礼申し上げます。また15年間野球をやってこられたのは紛れもなく家族の支えがあつたからであります。最高の4年間でした。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈念しております。

随想

経済学部4回生 井上明彦

手塚監督がおつしやっていた、「チーム最適」という言葉の意味を、入部当初は理解できませんでした。ただ、学年を重ねていくうちに、この言葉の通り、チームに貢献するのはプレー以外にも多くの方法があると学び、「自分の価値は自分がつくる」ということを強く思うようになりました。

そう考えるようになったのは、間違いなく卒業された先輩方の影響です。この部活には、私の憧れであり目標となる先輩方がたくさんいました。試合に出られない状況下での立ち振る舞いであったり後輩と積極的に会話する姿勢など、先輩方の背中を見て過ごす中、多くを学ぶことができました。傍から見れば私は今も幼稚なままなのかもしれませんが、少なくとも入部前より周りを考えて行動するようになったと自負しています。どれほどチームに貢献できたかはわかりませんが、好成績を残したチームの一員となれたことを誇りに思います。

また、自分が試合で活躍するより、同じポジション、立場のチームメイトが活躍することの方が嬉しかったし、チームが勝てば自分は試合に出なくてもいいと考えるようになりました。その点において、私は競争が常であるスポーツには向いていなかったのかもしれない。それでも、自分の力では到底及ばない場所まで連れてきてもらえ、また、素晴らしいチームメイトに出会えました。もし一から大学生活を始めるとしても軟式野球部に入部したいです。それほど軟式野球部での生活は僕にとって何にも代えがたい財産となりました。

道具代や遠征費など、この部での活動に費やした金額を見ると3年間で150万円にも及んでいました。優勝を果たした西日本大会終わりに計算してみてもゾツとしました。多くのお金が必要となりますが、それでも同志社の軟式野球部は、間違いなくこれだけのお金と時間を費やす価値のある部活です。チーム、また組織の在り方について熟考できたいい経験になったと強く実感しています。後輩たちには、チームで自分の役割をつくり出し、最後の学生野球を本当に悔いなく終わってほしいと切に願っています。

引退して時間に余裕のある生活を過ごすようになり感じるのは、時間に追われながらも、野球の練習や試合、活動資金を稼ぐためのアルバイトに明け暮れていた生活の方がはるかに充実していて楽しかったということです。三栖で部員のみんなど会って話したり、仲間と共に切磋琢磨した日々が私にとって最高の思い出です。これから社会人になっていく中で、野球以上に魅力を感じるものに出会えるかは正直わかりません。しかし、寝ても覚めても野球について考えていたように、野球以上に何か没頭できるようなものを見つけることが私の今の目標です。

最後になりましたが、軟式野球部の礎を築いてくださり、また野球に専念できる環境を作ってくくださった、奥田部長、手塚監督、田村球友会会長、塚本総監督、藤森コーチをはじめとする先輩方には感謝の気持ちでいっぱい입니다。心より御礼申し上げます。これからの同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想

商学部四回生 木崎 智統

私は「軟式野球部なら試合に出られるだろう」という理由で入部しました。そして、運が良く、1年生の頃から試合に出させていただき、大学時代で沢山の賞も頂くことが出来ました。振り返れば様々な事があつたなと思います。1年生の頃は、夏合宿で夜中に抜け出したり、西日本大会で緊張のあまり、顔が青ざめた事もありました。2年生の時には、大学時代唯一の2回KO。3年生は破天荒な1年で、春リーグ決勝戦中に肘を骨折し、全国大会は棒に振り、西日本大会では骨折治らぬまま、野手で出して頂き、NVPをとれたり。そして、手術乗り越え、4年生では野手と投手の二刀流に挑戦できたり。本当に奥の深い4年間だったなと思います。

少し、思い出話をした中で、まずは後輩の皆に感謝したいなと思います。4年生が残る文化がないこの部で、快く残ることを了承してくれ、残りやすい環境を作ってくれたことに、本当に感謝しています。少し生意気な部分もありましたが、本当に可愛い後輩達でした。ありがとうございます。

そしてなによりも、同期の皆には感謝しています。1年生の頃から浮いた存在で、幹部でもないのに言いたい事は言い、好き勝手する1匹狼でしたが、最後の最後までありがとうございました。自分も何か輪に入れないのを感じ、特に怪我をしてからは自分だけ何か孤立していたと思います。ですが、西日本大会で、また輪に入る事ができ、無事終われたかなと思っています。僕と天内の4年生のリーグ戦にも観戦に来てくれ、

久々に投手をしている姿を見せると、「やっぱりエースはお前や」と言ってくれて嬉しかったです。通算アベック3回の天内君、一緒に残ってくれて心強かったです。今後はそれぞれの進路に進み、バラバラになってしまふと思います。ですが、よく手塚監督が仰っておられる、「酒の席の話題」をみんなで作る事ができたと思うので、また集まって楽しみましょう。ありがとうございます。

また私事ですが、この場をお借りして、両親にも感謝を伝えさせていたきたいと思います。1年生の秋から、ほぼ毎試合に駆けつけてくれ、愛知にも、試合に出れない事がわかつている長野にも来てくれました。試合内容で喧嘩する事もありましたが、4年間続けられたのは間違いなく、両親のおかげです。ありがとうございます。あと、息子さんが卒部されたのに、仕事の都合を付けて観に来てくださった、なるみさんありがとうございます。

最後になりましたが、手塚監督、塚本総監督、田村会長、奥田部長をはじめとする、多くの諸先輩方には多大なるご支援とご声援を賜りましたことに心より感謝致します。ありがとうございます。そして、今後の同志社大学軟式野球部の更なる活躍を心より祈っております。

4年間ありがとうございました。

随想

社会学部四回生 楠元 勇也

「ただ楽しく野球ができればいい。」私が軟式野球部に入部した当初に抱いていた感情だ。高校時代、神奈川県内でも屈指の野球の強豪校に所属したが多くの挫折を味わい、最終的には一度も公式戦に出場することはかなわなかった。このような経験を経て、大学では本気で野球に取り組むつもりはなく、学生主体で緩く楽しい雰囲気になれ、軽い気持ちで軟式野球部に入部した。しかし、このような感情はすぐに消えることとなった。初めてのリーグ戦で2個上の先輩たちが見せた全国制覇を貪欲に勝ち取りに行く気持ちに大学軟式野球の真の面白さに触れることができ、1個上の先輩たちがライバルの立命館大学と鏖を削る戦いに同志社大学軟式野球部の一員としてのプライドを持つことができた。このような素晴らしい先輩方と一緒に野球ができたことで、ただ楽しく野球をするのではなく、一選手として全国制覇を目指したいという目標を持ち始めるきっかけとなり、自身の中に眠っていた野球選手としての魂に火が付いた。とは言ったものの、大学でも決してすべてがうまくいったわけではなく、ポジションの変更など様々な試行錯誤を繰り返すことで春リーグ戦3戦目によりやくスタメンに名を連ねることができた。春リーグ優勝を決めた立命館大学戦は私の中の何かを大きく左右する試合となった。3点ヒハインドのタイブレークで、逆転の口火を切るタイムリーヒットを放った瞬間は今でも鮮明に覚えている。3点取られ、不穏な雰囲気は少し漂っていたベンチの期待を一身に受けてたった打席は、これまでの

野球人生で最も緊張した打席だったといっても過言ではない。その状況下でヒットを放った瞬間、何よりも最初に目の前に広がったのはチームメイトがベンチを飛び出すようにして大喜びしている景色だった。この時自身が長年野球を続けてこれたわけが分かった気がした。これまでは自身が活躍することに満足し自分自身のためにやっているのだと思込んでいたが、自身に取り巻く大勢の人の喜ぶ姿が自身のやりがいになっていたのだ。私自身がこれまで野球を続けてこれたのも家族をはじめとした多くの人々の支えがあったからこそだというのは言うまでもない。大学軟式野球はそのような人々に最高の恩返しができる舞台であった。また、恵まれた仲間のおかげで全国大会3位入賞、西日本大会優勝という輝かしい成績を収め、およそ15年の野球人生を最高な形で締めくくることができた。この経験とチームメイトと過ごした日々は私の一生の自慢として語っていききたい。

最後になりますが、手塚監督、塚本前総監督、田村球友会会長、奥田部長をはじめとする多くの諸先輩方には多大なるご支援を賜りましたこと心より感謝致します。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご活躍を祈っています。

随想

法学部四回生 上月 陸

同志社大学体育会軟式野球部での日々が私の大学生活の全てだ。私は一回生の冬に入部した。それまではサークルに入り退屈な日々を過ごしており、このままでは大学生活で何も残らないと感じていた。そんな中、学校の英語の授業で自分の体よりも大きな野球バググを持った、如何にも田舎臭い少年を見つけた。そう、鷲尾大誠だ。彼との会話で私は軟式野球部に入りたいという思いが芽生えた。そして、入部の際に必要なお金を貯めるためにバイトをし、高校時代の怪我が再発しないために整形外科に通う日々を過ごした。

そして、一回生の冬、私は初めて三栖公園に足を運んだ。途中入部すること、新しい環境に飛び込むこと、これらは私にとって勇気がいることだった。しかし、ここで勇気を出して踏み出した一歩が、退屈だった大学生活をアツイものへと変えたのだった。

軟式野球部での日々を振り返ってみて、特に印象的な出来事が二つある。一つは秋季リーグでの井上明彦のヒットだ。彼はチーム一の努力家であったが、私たちの代になつてからは試合で結果が出ずに苦しんでいた。結果が出なくても、努力する彼の姿をチーム全員が知っていたため、打席に入るとみんな応援した。そして、相手は忘れたが枚方東部スタジアムで行われた秋季リーグ戦で彼はヒットを放った。その時、私は前主将松井墨の言葉を思い出した。「このチームは他の選手のヒットを自分のことのように喜べるチーム」という言葉である。それを聞いた当時は正直、

綺麗事のように思えた。しかし、井上のヒットのおかげで私は前主将松井の言っていたことを理解し、実感することができた。そして、これこそが集団スポーツにおけるチームのあるべき姿であると共に、私たち同志社大学体育会軟式野球部の強さの秘訣だと感じた。

印象的な出来事の二つ目は西日本大会の準決勝勝桃山学院教育大学戦だ。その試合で私は登板し無失点に抑えた。正直、嬉しかったが私が印象に残っているのはそんなことではない。むしろ、その試合後のことである。試合が終わり、ベンチからスタンドに道具を運んでいる時に、スタンドで応援してくれていた選手達が駆け寄ってきて、「ナイスピッチでした」と言ってくれた。その中には、本来ならばベンチ入りできた選手もおり、悔しい思いをしているにも関わらず、私に声をかけてくれた。その言葉に私は涙をこらえきれなかった。どんな状況に置かれてもチームのために動いてくれた選手たちに感謝する。

まだ引退して一年も経っていないが三栖公園や一緒に野球をした仲間が恋しく感じる。全国制覇を目指して毎日汗を流した日々は私の一生の宝だ。最高の思い出をありがとう。

末筆にはなりますが、手塚監督、奥田部長、田村球友会会長、藤森コーチをはじめ諸先輩方には、多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念しております。

随想

商学部四回生 辻村 一真

朝6時台に出発し、終電を逃したであろう人と共に電車に揺られる。天気が微妙な時には何人かの人から練習の可否のLINEが入り京都の天気を知り、確認する。私の軟式野球部でのスタートはいつもここからだつた。

全体的にレベルが高く、甲子園に出場した先輩もいれば、同期にもいきなり活躍する人もいた。早くも選手というよりはお客さん目線で見えていた。そんな私に2年秋、1つの転機が訪れた。春のリーグ戦で優勝を逃し、秋リーグそして西日本大会に向けて練習していた夏の平日練習。この日は異常に暑く、1、2人バッティングしては休憩。そんな感じだった。私自身も暑さから体力もなく、バッティングなどできるような状態ではなかった。ただ、自分の為に投げてくれる先輩に申し訳ないと思い、力をできるだけ使わず、真面目にやっているように見え、自分のバッティング練習を終える。その方法だけを考えていた。結果的にこれが私の武器になる「叩き」だった。練習終了後、当時の主将・壘さんに「ええやん」その一言だけかけていただいた。

緊迫した場面の打席はプレッシャーしかなかった。ランナーは走らずゴロを転がすサインもできていた。何よりも私の活躍場所を見つけ、失敗しても自信を取り戻すために大差の試合で使っていたのだ。幹部の方々に感謝しかなかった。そして始まった秋のリーグ戦で優勝。西日本大会でも優勝できると思った矢先に初戦で敗退。楽しかった先輩との時間は急に

終わりを迎えた。主将・平井の代でもチームの目標の為に「叩き」を極めるしかないという考えに至った。結果的に自分たちの代で全国大会に出場でき、最後は西日本大会優勝と勝って引退することができたのはうれしいものであった。ここ一番で信頼してもらった同期には感謝しかないと思う。春リーグで丸井が、秋リーグで平井が、投手・木崎は秋・全国・西日本大会で欠けた中でも勝ちきれたのはチーム全体の力であると思う。チームのために積極的に行動できる後輩のすばらしさも常に感じた。正直自身チームの勝利に貢献できた回数には少ないと思う。ただ、レギュラーでなくても自分のように活躍しチームの勝利に貢献できることが後輩たちに伝われば何よりの成果ではないかと思う。

これから最上級生として活動する部員は同期の繋がりを大切にしながら、より多くの人がチームの目標に向かってモチベーションを保てる環境づくりに努めてほしいと思う。また後輩になる部員は後輩らしく元気の良さだけは忘れずチームの目標にどのように貢献できるかを考えながら練習に励んでほしいと思う。その意識がいずれ役に立つと思う。特に今年は満足のいく活動ができなかったと思うが、全国大会・西日本大会優勝という高い目標を掲げながら、ぜひ負けないチームになってほしいと思う。

最後になりますが、手塚監督、奥田部長先生、田村球友会会長をはじめ多くのOB・OGの皆様から多大なるご指導、ご支援をいただきましたこと、心より感謝いたします。今後の同志社大学軟式野球部のご活躍を心より祈っています。

随想

社会学部四回生 藤本 修成

プロフオアボーラー、それが私の肩書きである。幹部やベンチからの数少ない期待を背に十分に投球練習を済ませ、満を持して登板し、息をするようにフオアボールを出す。この仕事ぶりからこうした肩書きが付けられた。

そんな私も高校最後の大会前に怪我をし、不完全燃焼に終わった高校野球の無念を同志社大学のユニフォームを着て晴らしたいという希望を抱いて入部した。入部当初は比較的控制ローラーが安定してまとまったピッチングが出来ていたが、メンタルの弱さとうまく隠していたノーコンが露呈するようになった。そして、投球数が増えたあけく背中に水が溜まった。

こんな状態から最後の春リーグで先発として勝ち星を得ることが出来たのは、間違えなく周囲の支えである。ピッチングとはなんぞやという一から十まで教えて頂いた田川さん、フオアボールを出してベンチに戻ってきたときの心の支えであった「アサイワコンビ」の浅井さん、岩井さん、時にはケツを蹴りながら指導してくれる大エース木崎、中学から投手をやってきたとは思えない下手なフィールディングを改善してくれた楠元、グラウンドでは戦陣をきって、我先にと私をプロフオアボーラーと野次る癖に帰り道では真剣に相談してくれるヨコフこと横橋、他にもここには書き切れないが多くの同期、先輩、後輩、マネージャーに支えられた結果であると思ひ、心から感謝している。ここまでまるで西日本大会で最優秀

選手になったような書きぶりであるが、実際は唯一出場した西日本大会の桃山学院教育大戦では四番にホームランを打たれてしまった。今でも通学するときに通過する尼崎ベイコム球場のライトスタンドをほんやりと眺めてしまう。

入部当初に思い描いた、華々しく活躍する自分ではなかったかもしれない。しかし、この軟式野球部で得たものは計り知れない。特に、周囲を全力で応援する心はこの部から学んだ。印象的なシーンとして、秋季リーグの第八戦、対大阪市立大にて飛び出した井上のヒットがある。この年、彼はヒットが出ておらず、彼自身とても悩んでいた。そして、全体練習終わりの自主練習では必ず残つて黙々とバットを振っていた。彼の努力を見ていたせいかそのヒット一本に沸き上がるようにして喜んだ。たとえ自分が試合に出ていなくとも自分の事のように喜び、祝福する。そんな風潮が全国大会、西日本大会でのチームの勢いを加速させたように感じる。就職活動やコロナによる自粛期間があつたためか、去年の西日本大会や全国大会がまるで昨日のことのようで、未だに引退した寂しさを感じる。数年後にまた全員で集まり、白球を追いかけてい。

末筆にはなりますが、奥田部長、手塚監督、塚本コーチ、田村球友会会長、藤森コーチをはじめとする諸先輩方の多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。今後の同志社大学体育会軟式野球部の益々のご発展を祈念しまして、私の随想とさせていただきます。

随想

文学部四回生 森川 智也

小、中、高校と野球を続け、大学では遊びたいと思っていた為、大学入部当初の私は軟式野球部に入部することは全く考えていませんでした。しかし、サークルを転々とし遊びふけていた自分に情けなさを感じると共に、もう一度真剣に野球をしたいと思うようになりました。

そういつた思いがある時にちょうど、入学前からの知り合いであった天内君から軟式野球部に誘ってもらい、本気で野球をしたかった私は途中入部という形で入部することに決めました。入部当初は、なかなか馴染めず、同じ時期に途中入部した浦田君もケガの関係で辞めてしまった為、なんとかチームの中で結果を出して認めてもらいたいという思いで、日々練習したのを覚えています。

軟式野球部の3年間を振り返ってみると、良い思い出もあれば、苦しくつらかった思い出もよみがえってきます。私にとって一番苦しい思い出は、2回生の時に捕手として出場した西日本大会1回戦での、チームの敗北に繋がる送球エラーをしたことです。自分のミスで負けたこと、何より、本当にやさしくかわいがってもらっていた先輩方の試合を終わらせてしまったことに、悔しさと、後悔が今でも残っています。ただ、先輩方からは暖かく励ましていただき、改めて軟式野球部に入部してよかったという思いと、自分たちの代では挽回したいという気持ちが強くなりました。そういった私にとって悔しい形で終わった2回生だったため、自分たちの代で、立命館大学に勝利し、全国大会に出場した瞬間は私の野球人生でも最

もうれしい瞬間でした。ホームで喜びを分かち合ったあの瞬間は今でも覚えています。

全国大会に出場してからは、一回戦でサインミスをしたり、打撃でも結果を出せなかったりとうまいかず、正直野球に対して、気持ちが落ちかけた時期もありましたが、これまで、私が試合に出場していた時に、応援してくれたチームメイトのことを思い出し、たとえ試合に出場していなくても、心から応援し、サポートしたいと思えるようになりました。

この軟式野球部で過ごした3年間は、やさしい先輩方、野球以外のプライベートでも付き合うことができる同期の仲間、親しみやすい後輩、みんなに支えられて、頑張つてこれたと思います。特に、途中入部にも関わらず暖かく迎えてくれた同期の仲間には感謝しかありません。本当にありがとうございます。

最後になりましたが、塚本総監督、手塚監督、奥田部長、田村球友会会長をはじめ諸先輩方には多大なるご支援ご指導を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想

経済学部四回生 吉田 脩馬

私は高校生まで内気な性格でした。あまり友達もおらず、家と学校の往復で生活をしていました。そして大学生になり、今までの自分を変えてみようかと軟式野球部に入部しました。もちろん、野球未経験者は私一人。初めは戸惑いもありました。なかなかチームに馴染めず、入部から半年間は途中退部を仕切りに模索していました。しかし、温かく受け入れてくれる先輩達や、同期、後輩たちに囲まれながら、野球というスポーツを通して、多くのことを学び得ました。今までとは違う体育会の活気溢れる生活にも必死に食らいつき、成人男性として恥じることもないたくましさを身につけていきました。また、少年野球しか経験がなかった私であっても日々のたゆまぬ努力により、試合出場を目指せるようになり、毎日の生活が鮮やかに色付いていきました。人間誰しも変わることができるのだ。そう感じる事ができる1年間になりました。同志社大学軟式野球部はまさに私に差し込んだ一筋の光、そして明日への掛橋となつていったのです。

そこからの私は見違えるような変化を遂げていきました。すれ違う見ず知らずの人々に元氣よく「おはようございます。」と挨拶し、良い人間関係を築くことができるようになりました。そして、日々の生活も活気のあるものへと変わつていったのです。私がこの部活動で得たスキルは数えることができます。コミュニケーション能力、対応力、忍耐力、努力する能力、人間力、バッティング、ピッチング、走力、体力など全ての力をこの

部活動を通して培いました。

今ではこの部活動のない生活に憂鬱さえ感じるようになりました。私にとって目標に向かい努力する日々はいつしか当たり前の日常へとなつていったのです。これからは野球以外の目標を見つけ、ひたむきに精進していきたいと思えます。同志社大学の軟式野球部を引退した今、これからのまだ見ぬ未来、挑戦にわくわくが止まりません。そして私はこの野球部で培った、あきらめないド根性を胸に自分の人生(みち)を歩んでいきます。最後になりましたが、塚本総監督、手塚監督、奥田部長、田村球友会会長をはじめ諸先輩方には多大なるご支援ご指導を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想

法学部四回生 鷺尾 大誠

思い出に残る四年間だった。

私は小学三年生の時から高校までの間、多くの時間を野球に注いできた。チームの成績としても、中学校では全国三位、ジャイアンツカップ出場、高校時代は、甲子園出場とはならなかったが、佐賀県ベスト4と私の中で「野球はもうやりきった」そう思っていた。しかし、大学に入学後、サークルの新歓でキャプテン平井と出会った。彼とは、似たような腰の怪我をしていたこともあり、すぐに意気投合した。彼は、軟式野球部に入ることとをすでに決めていたため、この野球部について詳しく教えてもらった。これが初めて軟式野球部を知るきっかけとなった。そこからは体験練習に行き、先輩たちの必死さを目の当たりにし、もう一度テッペンを目指して野球をしたいという気持ちが芽生え、軟式野球部に所属した。

私は大学から本格的に内野を始めた。当然のように周りとの差は歴然で、さらには、肩を負傷し満足のいく野球ができず心が折れそうな時もあった。それでも、全国優勝という目標に向かって、毎日努力しているチームメイトに救われ、「どんな形でもチームの勝ちに貢献したい」という気持ちで、自分なりに必死で野球に対して向き合っていた。その結果、リーグ戦の優勝にチームの一員として貢献することができ、また、サードランナーコーチとしても大きな大会で指示することができた。そして、最終的には全国三位、西日本優勝と素晴らしい

成績を残すことができた。また、同志社大学軟式野球部という宝物も手にすることができ、一生忘れることのない四年間になった。

この軟式野球部に入部して、正直辛かったことや悔しかったことはたくさんあったが、ここまで熱くなることができた野球、一生付き合っていくであろう仲間に出会えて幸せな四年間だったと思う。また、軟式野球部に入部していなかった生活を考えることができないくらい充実した四年間を送ることができ、本当にこの部活には感謝している。ありがとう。

末筆にはなりますが、手塚監督、奥田部長、田村球友会会長、藤森コーチをはじめ諸先輩方には多大なるご支援、ご指導を賜りましたことを心より御礼申し上げます。今後の同志社大学軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致しまして、私の随想とさせていただきます。

随想

社会学部四回生 阿部 唯奈

軟式野球部で過ごしたかけがえのない時間を振り返りたいと思います。今思い返すと、大学生活の中で一番感動したこと、一番笑ったこと、泣いたこと、様々な思い出を、私は軟式野球部の仲間たちと過ごしてきました。

入部当初は、慣れないマネージャー業に精一杯の毎日でした。途中入部だった私は、早く一人前のマネージャーになって、支えになりたいという一心で他のマネージャーを追いかけました。しかし、チームに必要とされる他のマネージャーと違って、私はサポートするどころか、選手のことも全然わからず、足手纏いになるようなことをたくさんして、迷惑を掛けました。そんな自分が嫌になり、自信もなく、このチームにいたら邪魔になってしまうと思ってしまうこともたくさんありました。そう思いながら部活に行っていたとき、一回生の春、体験に参加した時に「このマネージャーはどの部活よりも大変やけど、どの部のマネージャーよりも絶対やりがいあるよ」と先輩に言われたことを思い出しました。マネージャーが選手と近い距離で、同じ熱量で部活に取り組んでいる点に惹かれ、入部を決めたことを思い出しました。実際に、部員はみんな優しく、些細なことに気付いてくれたり、ありがとうと言ってくれる度に本当に頑張れました。そして悩みがあったら本気で向き合ってくれる仲間ばかりで、一人で抱え込んではいけな事も実感しました。そして何より、仲間の成功を自分のように喜び応援するみんなの姿をみるのが大好きで、チームの事が

大好きになっていました。毎日必死で練習する選手と同じように、私も一緒に必死になって、微力ながら自分にできることをしたいと思うようになっていました。こんな風に、しんどいこと以上に、夢中になれる環境があることが幸せだと思えたのは、本気で向き合ってくれたり、笑顔にしてくれる先輩や同期や後輩がいてくれたおかげです。

はじめは、学生最後に何か夢中になれる事がしたい、大好きな野球に関わりたいたいという気持ちだけで、責任感なんて全然なくて、仕事もできなくて、たくさん迷惑をかけました。それでも一番一緒にいてくれた美翔、それから同期、先輩や後輩のおかげで、たくさんことを学ぶことができ、少しは成長できたかなと思っています。こんなに応援したくなるようなチームに出会えて、この自慢のチームのマネージャーを経験できて本当に良かったです。一番お世話になった美翔や同期、後輩との出会いは宝物です。家族や友人を含め、たくさん支えがあつてこのような経験ができたこと、本当に感謝しています。そしてこんなかけがえのない経験をさせてもらった軟式野球部をこれからはファンとして、ずっとずっと応援しています。

最後になりますが、手塚監督、塚本総監督、奥田部長先生、田村球友会会長をはじめとする諸先輩方には多大なるご支援、ご指導を賜りましたこと、心より御礼申し上げます。また、これからの同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致します。

随想

経済学部四回生 吉田 美翔

私は、中高クラシック音楽の部活に所属し日々自分が結果を残す立場として取り組んできましたが、大学では心機一転「頑張る人を支える経験がしたい、人の為になる事がしたい」という思いから体育会のマネージャーが出来る部活を探していました。そこで高校の先輩に誘って頂き軟式野球部へ体験に行くと、選手と一緒にベンチに入って練習準備をしたドリドロロになって走り回ったりと、どこの部活よりも選手とマネージャーの距離が近く、日々の練習のサポートはもちろんスコア管理や身体ケアといったトレーナー的一面も担う仕事内容に魅力を感じ軟式野球部へ入部を決意しました。

入部した当初は、スコアを覚えるのに時間がかかったり、マネージャーが一人だったという事から選手との距離感が掴めなかつたりと何度も挫折しそうになっていました。けれどそんな時はいつも、声をかけてアドバイスをくれていた同期みんなに支えられ乗り越える事が出来ていました。みんなを支える立場の私が逆にみんなに支えられ、そんな優しい同期みんなに「恩返しをしたい」その気持ちが強くなり、常に選手やチームの事を考えて行動し全力でサポートしたいと思うようになっていきました。

3回生になり、夏は全国大会ベスト4、秋は西日本大会優勝。この素晴らしい結果の裏には、例年より多い練習時間や一人一人のチームのための努力といった言葉では言い表せない程の全員の努力があります。マネージャーとして、試合に出る選手の隠れた必死の努力や、試合に出られ

なかつた選手が悔しさをバネに成長しチームを本気で応援する姿など、全員が輝いて一生懸命に戦うチームの姿を見た瞬間が、一番嬉しくてこのチームのマネージャーで本当に良かったと思えた瞬間でもありました。

この感動を含めて、そんな最高の経験をさせてくれたこのチームには感謝の気持ちでいっぱいです。頭の回転も鈍く不器用な私でしたが、サポートした際にみんなから「いつもありがとう」と言葉を貰う度に、自分の努力は結果として目に見えなくてもこの言葉がやりにがいに繋がり結果以上の大切な物を得られているなど実感出来ていました。マネージャー経験のない私を受け入れてくれた同期、そして2回生で入部してここまで一緒に仕事を頑張ってきた唯奈、みんなの存在が一生の財産であり宝物です、本当にありがとうございます。可愛い後輩のマネージャー達には、苦勞する事も多いと思いますが最後まで全力でチームを支えて、楽しんで頑張ってくださいと思います。大好きなこのチームのみんなをずっと応援しています。

末筆にはなりますが、塚本総監督、手塚監督、奥田部長先生、田村球友会会長、藤森コーチを始め諸先輩方には多大なるご支援、ご指導を賜りました事を心より御礼申し上げます。同志社大学体育会軟式野球部の益々の発展とご活躍を祈念致しまして、私の随想とさせていただきます。ありがとうございます。

四回生終身成績

打撃成績

	打率	打席数	打数	安打	打点	四死	犠打	盗塁
平井	0.222	99	72	16	14	25	2	10
太田	0.305	184	141	43	16	42	1	42
横橋	0.182	14	11	2	1	3	0	0
天内	0.273	161	128	35	24	24	3	8
井上	0.200	14	10	2	1	4	1	0
木崎	0.293	123	116	34	20	5	1	10
楠元	0.245	61	53	13	4	7	0	10
上月	0.000	6	5	0	0	1	0	0
辻村	0.100	32	30	3	6	2	0	1
藤本	0.200	14	10	2	0	0	4	0
森川	0.230	97	74	17	13	15	8	0
吉田	0.000	8	6	0	0	2	0	0
鷲尾	0.151	66	53	8	3	5	8	8

投手成績

	防御率	投球回	打席数	打数	被安打	被本塁打	与四死	奪三振	失点	自责
木崎	1.11	186	674	602	81	3	71	166	40	23
藤本	1.8	45	189	158	21	1	31	31	14	9
上月	3.12	13 2/3	66	53	8	0	11	4	4	3

好敵手

2019 年度 秋季リーグ戦

■2019 年 8 月 26 日 VS 関西学院大学①

秋①

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	1	0	0	4	0	0	0	0	0	5
関学	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1

◎成績

[勝利投手] 坂東

[敗戦投手] 寺井

■2019 年 8 月 27 日 VS 大阪市立大学①

秋②

古曽部防災公園

	1	2	3	4	5	計
市大	0	0	0	0	0	0
同志社	5	0	0	3	×	8

◎成績

※5 回雨天コールド

[勝利投手] 藤本

[敗戦投手] 中西

[本塁打] 片桐 [二塁打] 太田、片桐、藤本

■2019 年 8 月 29 日 VS 関西学院大学②

秋③

寝屋川公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
関学	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
同志社	0	0	0	0	1	0	0	0	×	1

◎成績

[勝利投手] 坂東

[敗戦投手] 土橋

[二塁打] 古谷、下川

■2019年 9月02日 VS 立命館大学①

秋④

枚方東部スタジアム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
立命館	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
同志社	2	0	0	0	1	0	1	0	×	4

◎成績

[勝利投手] 坂東

[敗戦投手] 美馬

[二塁打] 川端

■2019年 9月03日 VS 関西大学①

秋⑤

枚方東部スタジアム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	1	0	0	0	0	0	1	0	1	3
関大	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2

◎成績

[勝利投手] 藤本

[敗戦投手] 堀内

■2019年 9月04日 VS 甲南大学①

秋⑥

万博公園第一野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	0	2	0	0	3	5
甲南	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3

◎成績

[勝利投手] 上月

[敗戦投手] 山口

■2019年 9月06日 VS 関西大学②

秋⑦

豊中ローズ球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
関大	0	0	0	1	0	0	0	0	1
同志社	0	2	1	3	0	0	1	1	8

◎成績

※8回コールド

[勝利投手] 坂東 [敗戦投手] 棚木
[二塁打] 川邊、片桐、坂東

■2019年 9月09日 VS 大阪市立大学②

秋⑧

枚方東部スタジアム

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	1	2	1	1	0	0	0	5
市大	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

◎成績

[勝利投手] 下川 [敗戦投手] 谷口
[本塁打] 川邊 [二塁打] 丸井

■2019年 9月10日 VS 甲南大学②

秋⑨

豊中ローズ球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
甲南	0	2	0	0	2	2	1	0	0	7
同志社	2	0	2	0	2	0	0	0	2×	8

◎成績

[勝利投手] 下川 [敗戦投手] 小谷
[三塁打] 川邊 [二塁打] 天内、片桐、星野、坂東

■2019年 9月19日 VS 立命館大学②

秋⑩

豊中ローズ球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
同志社	0	0	0	0	0	0	0	0	0
立命館	1	0	0	0	1	4	0	1×	7

◎成績

※8回コールド

[勝利投手] 栗山 [敗戦投手] 坂東
 [二塁打] 川端

	大学名	立命館	同志社	関西学院	甲南	大阪市立	関西	勝	負	分
1	立命館		●○	○○	○○	○○	○○	9	1	0
2	同志社	○●		○○	○○	○○	○○	9	1	0
3	関西学院	●●	●●		○●	○○	○●	4	6	0
4	甲南	●●	●●	●○		●●	○○	3	7	0
5	大阪市立	●●	●●	●●	○○		●○	3	7	0
6	関西	●●	●●	●○	●●	○●		2	8	0

～ベストナイン～

投手 栗山 (立命館)
 捕手 中村 (立命館)
 一塁手 川添 (関学)
 二塁手 中山 (立命館)
 三塁手 片桐 (同志社)
 遊撃手 谷口 (市大)
 外野手 濱野 (甲南)
 清水 (関学)
 柳谷 (市大)

最優秀選手 中村 (立命館)
 優秀選手 坂東 (同志社)
 首位打者 片桐 (同志社) .321
 本塁打王 長友 (甲南) 3本
 打点王 長友 (甲南) 9打点
 盗塁王 小川 (市大) 丸井 (同志社) 10個
 最優秀防御率 栗山 (立命館) 1.13
 奪三振王 栗山 (立命館) 24奪三振

2019年度 秋季リーグ成績

<打者成績>

	打席数	打数	安打	二塁打	三塁打	本塁打	塁打数	打点	四球	死球	三振	盗塁	犠打	犠飛	打率
太田	40	36	8	1	0	0	9	2	4	1	5	8	0	0	0.222
丸井	41	31	8	1	0	0	9	5	7	1	5	10	2	1	0.258
片桐	40	28	9	3	0	1	15	5	8	2	3	4	1	1	0.321
天内	30	20	5	1	0	0	6	3	4	3	2	5	0	1	0.25
古谷	28	25	6	1	0	0	7	3	1	0	4	1	2	0	0.24
楠元	17	13	0	0	0	0	0	0	3	1	3	2	0	0	0
星野	30	27	4	1	0	0	5	3	3	0	4	1	0	0	0.148
坂東	17	16	4	2	0	0	6	4	1	0	5	0	0	0	0.25
長	4	3	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
鷺尾	30	21	5	0	0	0	5	0	1	2	5	3	6	0	0.238
藤本	4	3	2	1	0	0	3	0	0	0	0	0	1	0	0.667
川端	17	16	3	2	0	0	5	2	1	0	1	0	0	0	0.186
城	3	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
下川	7	7	1	1	0	0	2	0	0	0	2	0	0	0	0.143
辻村	12	12	1	0	0	0	1	2	0	0	2	0	0	0	0.083
川邊	18	14	4	1	1	1	11	4	2	2	1	0	2	0	0.286
平井	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
森川	5	3	1	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	0.333
横橋	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
吉田旭	8	7	2	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0.286
木崎	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	0	0	1
吉田脩	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
水田	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
古川	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
秦	2	1	1	0	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1
井上	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
上月	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
合計	367	298	66	15	1	2	90	33	39	13	51	38	16	3	0.221

< 投手成績 >

	登板数	投球回	被安打	被本塁打	奪三振	与四球	与死球	失点	自責点	防御率
坂東	6	41	20	2	19	19	2	15	12	2.63
下川	5	21	12	0	10	8	0	2	1	0.42
宮城	4	7.2/3	5	0	2	5	1	3	3	3.52
藤本	3	11.1 / 3	3	0	9	12	0	2	2	1.58
上月	2	3	2	0	0	5	0	0	0	0

< 失策 >

丸井	3
星野	1
上月	1
鷺尾	1
坂東	1

< 捕手成績 >

捕手	盗塁企画	許盗塁	刺盗塁	盗塁阻止率
星野	13	7	6	0.462
森川	2	2	0	0

< チーム成績 >

試合数	10 試合
打率	0.221
本塁打	2
防御率	1.93
盗塁阻止率	0.4
盗塁数	38
失策	7
犠打・犠飛	19

2019 年度 新人戦

■2019 年 11 月 06 日 VS 関西学院大学

住之江公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	1	0	0	4	0	0	0	0	5
関学	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4

◎成績

[勝利投手] 下川

[敗戦投手] 笠崎

■2019 年 11 月 07 日 VS 大阪市立大学

住之江公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
同志社	0	0	0	4	0	1	0	0	1	3	9
市大	0	1	0	1	2	1	1	0	0	1	7

◎成績

[勝利投手] 宮城

[敗戦投手] 中西

■2019 年 11 月 08 日 VS 立命館大学

伊丹スポーツセンター野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	2	0	0	1	0	0	0	3	6
立命館	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3

◎成績

[勝利投手] 下川

[敗戦投手] 栗山

第36回 西日本大会

・2019年11月13日 中京学院大学

1 回戦 山本球場

	1	2	3	4	5	6	7	計
中京学院	0	0	1	0	0	0	0	1
同志社	3	0	3	0	0	2	×	8

※7 回コールド

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
下川	7	25	91	4	0	2	1	1	1.29

<本塁打> 木崎、天内 <二塁打> 太田、片桐、星野、川端

第36回西日本大学軟式野球大会1回戦は、2019年11月13日大阪府山本球場にて行われ、中京学院大学との対戦となった。中京学院大学は夏に行われた全日本選手権の優勝校。強豪相手の試合となった。同志社の先発は1回生ながら秋季リーグでも活躍を見せた下川。チャレンジャー精神で挑んだという下川は強豪相手に力強い投球を続け7回1失点に抑える。打線は初回先頭の太田の2塁打、続く平井の四球で無死1、2塁とし3番の片桐の2塁打等で一挙に3点を獲得する。その後3回に1失点するも、その裏4番の天内が安打出塁すると6番の木崎の本塁打等でまたも3点を獲得する。6回にも天内の本塁打が飛び出すなど全日本選手権優勝校相手に計11安打8得点という結果を取めた。同志社は初戦に8-1の8回コールドで勝利。沖縄大学との準々決勝戦へ駒を進めた。



第36回 西日本大会

・2019年11月14日 VS 沖縄大学

準々決勝 寝屋川公園第1野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
沖縄大学	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
同志社	0	0	2	0	0	2	4	0	×	8

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
坂東	8	29	103	7	1	2	5	2	2.25
宮城	1	5	16	2	0	0	1	0	0

<二塁打>天内、木崎

第36西日本大学軟式野球大会準々決勝は寝屋川公園第1野球場で行われ、沖縄大学との対戦となった。リーグ戦で慣れ親しんだ球場での対戦となり選手たちに緊張の様子はなかった。そんな同志社の先発マウンドには坂東が上がった。安定した投球で次々と相手打者を打ち取り相手スコアに0を刻んでいった。打線は3回、打順は1番の太田。軽々とレフトへのヒットを放ち自慢の足で塁を進め無死3塁とすると2番平井のタイムリーで先制、続く片桐のヒット、天内の犠牲フライで2点目を追加と勢いに乗る。2点リードで迎えた5回、試合は予期せぬ展開へ。坂東が先頭に左中間へのヒットでの出塁を許し、続く打者に同点のツーランホームランを浴び試合は振り出しへと戻された。続く6回、気合を入れなおしたと坂東が相手を完ぺきに抑える。その裏、先頭の木崎がツーベースを放つと、続く星野の叩きつける打球の間にホームに生還し勝ち越しに成功する。その後、坂東、丸井の安打でもう1点を追加し、7回には4点を追加し相手を突き放す。その後相手を無失点に抑え同志社が8-2で勝利し桃山学院教育大学との準決勝へと駒を進めた。



第36回 西日本大会

・2019年11月15日 VS 桃山学院教育大学

準決勝 ベイコム野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	1	0	5	0	0	1	3	0	0	10
桃山	1	0	0	0	0	0	0	2	0	3

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
下川	6	24	94	5	0	1	6	1	1.5
宮城	1	5	18	1	0	1	0	0	0
藤本	1	7	30	1	1	2	1	2	18
上月	1	4	16	0	0	1	0	0	0

<二塁打>木崎

2019年11月15日にベイコム野球場(兵庫県)にて行われた第36回西日本大学軟式野球大会準決勝・対桃山学院教育大学。ここまでの2試合大量得点で勝利を収め勢い乗る同志社は初回、先頭の太田がヒットで出塁すると、俊足を生かし盗塁を決める。続く平井の送りバントでチャンスを広げると、3番片桐がライト前へのタイムリーを放ちまたも同志社が先制点を奪った。しかしその裏、先発下川が捉えられた。簡単にツーアウトを取るも、3番4番に連打を浴び早くも同点とされてしまう。それでも選手たちに焦りはなかった。そんな同志社の3回の攻撃時にピクイニングが訪れた。相手のエラーや暴投で勝ち越すと、流れを引き寄せ川端、木崎、星野の三者連続タイムリー。打者一巡の猛攻で、一挙に5点を加える。6回には片桐の2本目のタイムリー、7回には相手のミスにつけこみ3点を得てリードを広げた。守るは先発下川が初回に失点はしたもののその後は立て直し完べきな投球を続け、7回からは、宮城、藤本、上月の継投で相手を2失点に抑え、同志社が10-3で勝利を収め宿敵立命館大学との決勝戦へと駒を進めた。



第36回 西日本大会

・2019年11月16日 VS 立命館大学

決勝戦 万博記念公園野球場

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
同志社	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
立命館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	投球回	打者	投球数	被安打	被本塁打	四死球	奪三振	失点	防御率
坂東	9	33	103	4	0	2	5	0	0

2019年11月16日に万博記念公園野球場(大阪府)にて行われた第36回西日本大学軟式野球大会決勝・对立命館大学。先発のマウンドには準々決勝で完璧な投球を見せた1回生右腕の坂東。初回、味方のエラーによりいきなりランナーを背負うも後続を危なげなく打ち取り完璧な立ち上がりを見せた。その後も坂東は、ランナーを背負いピンチを迎える場面もあったが、秋リーグ以降新しく習得したというスプリットをうまく織り交ぜ立命打線を封じ込んだ。一方打線は、相手投手・栗山の好投、手堅い守備に苦しみ6回まですべての打者が抑えられるパーフェクトピッチングをされる。両校の投手が好投し6回まで両者無得点。緊迫した投手戦が続いた。迎えた7回、同志社の攻撃。先頭の太田がセンターへのヒットで出塁すると、すかさず盗塁を決める。続く平井の内野ゴロの間に1死3塁とする。ここで打席に立ったのは、3番1回生の片桐だ。初球を見逃し、迎えた2球目をレフトへと運び同志社が先制する。その後坂東は集中を切らさず、1点リードで迎えた9回の裏を3人で抑え立命館に完封勝利。6年ぶりの西日本大会優勝を決めた。



MEMORIAL SNAP



平井隆太 # 10

太田悠馬 # 22



横橋史典 # 5

MEMORIAL SNAP



天内凌将 # 7

木崎智統 # 1



鷺尾大誠 # 6

MEMORIAL SNAP



井上明彦 # 9

藤本修成 # 19



森川智也 # 21

MEMORIAL SNAP



辻村一真 # 27



楠元勇也 # 2



上月陸 # 14

MEMORIAL SNAP



吉田脩馬 # 16

吉田美翔



阿部唯奈

同志社大学体育会軟式野球部規約

第1章 総 則

第1条(名 称)

本部は同志社大学体育会軟式野球部と称する。

第2条(目 的)

本部は同志社大学体育会の一員としての自覚と誇りを持ち、体育会、連盟および会員相互の親善・交流を通じて、スポーツマンとして健全なる人格を形成し、心身ともに向上することを目的とする。

第2章 組 織

第3条(組 織)

本部は第1章第2条の主旨を積極的に賛同する学生によって組織される。また、運営にあたり、下記の機関を設ける。

- 1、総会
- 2、幹部会
- 3、役員会

第3章 部 員

第4条(資 格)

本部員たる資格は同志社大学或いは同志社女子大学の学生で所定の部費を納入し、本部の主旨に賛同する者のみに与えられる。尚、硬式野球部、準硬式野球部並びにサークル、外部野球団体に所属する者には資格を与えない。

第5条(義 務)

第1項 本部員は本部の向上発展に寄与し、所定の部費を完納する義務を負う。

第2項 本部員は総会および諸行事に積極的に参加、出席する義務を負う。

第6条(入 部)

入部希望者は、入部届の提出を以て正式入部とする。中途入部希望者は、監督と幹部会の承認を得て入部可能とする。また中途入部者は、入部届の提出日より部費を納入する義務が発生する。

第7条(長期休部)

長期休部は、病気その他の事情により、幹部会がその理由を正当とみなし、休部届を提出した場合において承認する。尚、長期休部中は部費の納入義務を負わない。

第8条(除 籍)

本部員において、次の各項に該当する者は、幹部会において審査し、退部を命ずることができる。

第1項 無届長期休部したる者。

第2項 所定期間によって無届で部費を納入せざる者

第3項 本部規約に違反し、本部の品位を乱したる物

第9条(再入部)

退部を命ぜられた者が自ら反省し、自らの人格と品位を完全に回復し、その信用性が認められた者にのみ、役員会で審査し、これを認めることができる。

第10条(自主退部)

何らかの理由で、自主退部を希望する者は、退部届の提出を以て退部とみなす。また、退部届の提出月までは部費を納入しなければならない。

第4章 役員

第11条(定款)

本部は次の役職を置く。

主 将 1名

副 将 1名以上

主 務 1名

会 計 1名

連 盟 1名

渉 外 1名

合 宿 1名

ホームページ 1名

新球友 1名(兼務可)

第12条(任期)

役員の仕事は原則1年とし、前幹部・前役員会からの指名もしくは幹部会・役員会の話し合いで各職を決定する。

第13条(体育会本部委員)

同志社大学体育会本部からの要請があった場合、臨時職として、体育会本部委員を選出する・任期は年数に限らず、最終学年までとする。

第5章 役員の任務

第14条(主 将)

主将は、本部を代表し、本部に関する全ての事項を責任もって遂行する。

第15条(副 将)

副将は、全面的に主将を補佐し、主将不在中は役務を代理遂行する。

第16条(主 務)

主務は、諸行事の運営、OBとの連絡、スポーツ支援課・体育会本部・他クラブ等との接触、各役職の補佐、及び決定事項を承認する。

第17条(会 計)

会計は、本部の金銭出納の管理に関する全てを責任もって遂行する。

第18条(連 盟)

連盟は、関西六大学学生軟式野球連盟に関する全ての事務を行い、総会に出席し、その決議を全部員に報告する。

第19条(渉 外)

渉外は、練習グラウンドの確保を遂行する。

第20条(合 宿)

合宿は、合宿や遠征に関する交渉を遂行する。

第21条(ホームページ)

ホームページは、本部のホームページの管理を遂行する。

第22条(新 球 友)

新球友は、「新球友」製作に関する全ての事務を行う。

第6章 総 会

第23条(権 限)

総会は最高意思決定機関であり、規約の改正、会計報告の承認、その他本部全般に関わる重要事項を決定する。その際、原則的に全部員の出席を必要とする。

第24条(招 集)

総会は定例総会として年2回、春季・秋季シーズン終了時に開催する。但し、部員または幹部会の要望がある場合は、臨時総会を開催できる。

第7章 幹 部 会

第25条(権 限)

幹部会は、本部の執行機関であり、責任をもって本部の運営にあたる。

第26条(構 成)

幹部会は、主将、副将、主務、会計、連盟で構成される。

第8章 役 員 会

第27条(役 員 会)

役員会は、本部の活動を円滑に行う上で、役員が必要としたとき召集される。

第28条(構成)

役員会は、主将、副将、主務、会計、連盟、渉外、合宿、ホームページ、新球友で構成される。
(体育会本部委員が存在するときは、それも含む)

第9章 部 費

第29条(納入)

部費は月納とする。選手は月額2,000円、マネージャーは月額1,000円とする。また納入期間は、2月から11月までの10か月間とする。但し、1年次生の新入部員は6月から納入開始とし、4年次生は5か月分を納入することとする。

第30条(金額の改定・追加)

金額の改定追加は、全部員の承認を得なければならない。

第10章 部長・監督・コーチ

第31条(権限)

本部は、部長・監督・コーチを置き、本部の学生を中心とする活動に対して、適切な助言を与える。

第32条(部長)

部長は、同志社大学教授より、選出、依頼し大学長からの委嘱により就任する。尚、教授不在の場合、体育会の承認があれば、その限りではない。(1名)

第33条(監督)

監督は、同志社大学体育会軟式野球部OB会員より選出し、大学長からの委嘱により就任する。(1名)

第34条(コーチ)

コーチは、同志社大学体育会軟式野球部OB会員より選出し、大学長からの委嘱により就任する。(複数名可)

第11章 規約の改正

第35条(規約の改正)

本部の規約の改正は、幹部会において検討し、総会において出席者の3分の2以上の賛同を得なければならない。

第12章 付 則

第36条(施行)

本規約は、平成28年7月30日よりこれを施行する。

公式大会登録に関する規定

第一章 公式大会の種類

第1条 本連盟の主催する下記の大会を公式大会とする。

1. 春、秋期リーグ戦
2. 新人戦
3. その他本連盟の定めた大会

第二章 公式大会出場資格

第2条 出場するにあたっては、本連盟規約に定める会員でなければ出場できない。なお、選手登録は、リーグ戦開始一週間前とする。

第三章 規律違反チーム又は選手の処置

第3条 公式大会出場チーム又は選手が下記各号に該当するときは連盟委員の合議により相当の処置を行う。但し、ここの選手の違反はチームの責任とする。

1. 不正登録チームの出場
 - イ 試合中発見された場合は相手方に勝利を与える。
 - ロ 試合終了後に発見された場合も相手方に勝利を与える。
 - ハ 優勝決定戦終了後に発見された場合は準優勝者を優勝者とする。

2. 軟式野球規則に対する違反

軟式野球規則に従い審判員のくだしたいかなる判定に対しても服従しないもの。

3. 大会秩序を乱し、その進行を妨げる行為

軟式野球の正しい発達を阻害するような言動を行い、大会の進行を妨げる行為をしたもの。但しその行為をしたものがそのチーム又は選手の関係者であってもこの規定は準用する。

4. 放棄試合

放棄試合をした場合は相手方に勝利を与える。

第四章 出場人員

第4条 各学校は主将を含めた競技者によって編成し、主将は10番を付けこれ以外の選手の抗議は一切認めない。

第五章 服装

第5条 選手は必ず同一のユニフォームを着用すること。これに反した者は出場できない。又ズックの使用も禁ずる。負傷等によりやむを得ず使用する場合は主審の許可を得ること。

第6条 各選手は試合に臨むにあたってすべて学生服及びグラウンドコートを着用の上球場に集合すること。

尚連盟会議及び納会などの連盟行事のある際も上記のと通りの服装を持って集合することを厳守すること。

第六章 リーグ戦

第7条 順位は各校2回総当たりの勝ち点制によって決する。(1勝…勝点2、1分…勝点 1、1敗…0) 勝ち点同数の場合は、1位、2位だけで決定戦を行う。決定戦は1試合のみ行う。2位以下同数の場合は当事者間の対戦成績により決定する。

第8条 試合は9回戦とする。

第9条 日没及び降雨コールド試合は5回終了後とする。

第10条 本連盟ではコリジョンルールを適用する。

第11条 全試合終了後記録の優れていた者に対して下記の賞を与える。

最高殊勲選手賞 最優秀選手賞 最優秀新人賞(新人戦)

首位打者(規定打席数25) 打点王 盗塁王

最優秀防御率賞(規定投球回数36) ベストナイン

第七章 新人戦

第12条 新人戦は各校によるトーナメント戦によって優勝を決する。

第13条 試合は9回戦とする。

第14条 新人戦は年1回行うものとする。

第八章 付記

第15条 本連盟により開催される各試合は審判に絶大なる権限をあたえるものとする。

第16条 グランド内に於いては一切の暴力行為を禁ずる。これに反した場合は嚴重の処罰をあたえる。

第17条 捕手は原則として、事故防止のため、レガース、マスクの着用を義務づける。

球友会各位

秋冷の喉、先輩諸兄におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。OBOGの皆様にはOB会費など多大なる経済的ご支援を賜り、部員一同感謝しております。

昨年の春リーグ戦では、平井主将の下で一戦一戦堅実に戦い、関西大学に一敗こそ許すものの、9勝1敗で全国選手権へと駒を進めることが出来ました。

そして迎えた全国大会では、初戦、福山平成大学相手に6-0の5回雨天コールドで勝利し勢いに乗り、続く2回戦駒沢大学との試合では8-1の8回コールドで勝利、3回戦では前年度全日本選手権優勝校であった東北福祉大学に3-2のサヨナラで勝利を収め準決勝まで進むことが出来ました。しかし、準決勝にて4-5で桐蔭横浜大学に敗れ、ベスト4という結果に終わりました。

全国ベスト4という自信を胸に臨んだ秋リーグでは一戦一戦確実に勝ち星を積み重ね9連勝を収めていましたが、最終戦の立命館大学との試合で敗れ2位という結果で終わりましたが、結果としては西日本大会出場をすることができました。

全国大会で成し遂げることが出来なかった優勝を目標に臨んだ西日本大会では、初戦から全国選手権優勝の中京学院大学との試合となりましたが、打線がかみ合い8-1の7回コールドで勝利を収め勢いに乗りま

した。続く準々決勝では、沖縄国際大学と試合を行い8-2で勝利。準決勝では、桃山学院教育大学相手に10-3で勝利を収めることが出来ました。迎えた決勝戦では、立命館大学との試合となり、両校の投手が好投を続ける中、7回の同志社の攻撃時に1点を先制し、その後は相手を0に抑え1-0で勝利し西日本大会優勝という成績を収めることが出来ました。

先輩方の偉大な成績を引き継ぎ、また追い越せるようにと丸井主将の下で全国選手権優勝、西日本大会2連覇を目標に掲げていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により春季リーグ、全日本選手権の中止。同志社大学より全体育会の活動の休止が行われ、3月より約3か月間の活動休止となりました。

7月よりスポーツ支援課管理の下、最大限の感染予防等を行いながら活動が再開し、満足に練習等ができないまま秋季リーグを迎え、

この文章が皆様の目に入る時には、良い報告が出来るように精進して参りたいと思います。

このように私達、現役部員一同が野球に打ち込んでいるのも、先輩諸兄の多大なる支援のおかげであります。部員一同感謝申し上げます。ご支援に報えるよう、日々の練習に精進し、最高の結果を目指す所存であります。

今後も部員一同、体育会軟式野球部のさらなる発展のため、なお一層の努力を重ねてまいります。その中で、先輩諸兄のご協力を頂くこともあるかと存じます。何卒私たちの考え方にご理解、ご協力をお願いいたしますとともに、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

2019年度球友会会計報告
(2019年4月1日～2020年3月31日)

単位:円

収 入		支 出	
来賓祝い金	420,000	通信費、事務費	96,620
60周年祝い金(廣田憲司氏)	10,000	新球友制作費	123,200
OB会費(108名)	648,000	秋季総会・懇親会	1,184,635
特別寄付(29名)	156,000	学生支援	382,560
懇親会会費(@6,000円/OBOG52名)	312,000	監督、コーチ支援	34,400
懇親会会費(@3,000円/学生57名)	171,000	体育会、ユニオン、校友会	252,000
「歩み」購入代金	36,000	「歩み」関連費用	180,830
受取利息	13	手数料	10,054
小 計	1,753,013	小 計	2,264,299
前期繰越金	1,481,400	次期繰越金	970,114
合 計	3,234,413	合 計	3,234,413

単年度収支	▲ 511,286
-------	-----------

会長 田村 好司 印

会計 岩佐 拓己 印

提出された帳簿及び関係書類について監査した結果、
その内容が正確且つ適正であることを認めます。

2020年7月11日 会計監事 木下 幸典 印

会計監事 柴田 嘉宏 印

60周年記念式典・祝賀会

2019年11月16日

単位：円

収 入		支 出	
来賓祝い金	420,000	ホテル費用	1,033,980
祝い金(廣田憲司氏)	10,000	事務費	40,485
OBOG懇親会費	312,000	郵送費	8,406
学生懇親会費	171,000	記念品	103,400
		感謝品	30,000
		表彰楯	5,775
		司会謝礼	5,000
		欠席者お礼	6,480
		手数料	2,640
合 計	913,000	合 計	1,236,166

記念事業収支	▲ 323,166
--------	-----------

2019年度 特別寄付納入者

卒 年	氏 名	卒 年	氏 名
S40	大井 聰一	S61	永井 靖典
S43	廣田 憲司	S62	坂本 忠司
S43	増田 浩三	S62	砂子 達矢
S43	安田 一夫	S63	柴田 嘉宏
S44	高柳 仁見	H7	藤本 誠一
S47	倉橋 公生	H9	小島 武士
S48	上原 隆司	H10	齊藤 英孝
S53	高室 和彦	H10	古谷 将彦
S53	田村 好司	H10	本田 弦
S54	井垣 篤司	H11	福島 圭吾
S54	北山 隆	H14	常藤 剛史
S55	渋谷 武	H14	原田 明德
S59	坂下 雅弘	H16	花岡 孝圭
S59	宮田 俊明	H29	大友 健裕
S61	田中 豊		

(敬称略)

(29名)

2019年度 球友会会費納入者

(敬称略)

卒 年	氏 名	卒 年	氏 名	卒 年	氏 名
S40	大井 聰一	S62	坂本 忠司	H15	柳田 一匡
S42	石本 征範	S62	砂子 達矢	H15	山本 和広
S42	松永 正敏	S63	柴田 嘉宏	H15	吉田 絵里
S43	廣田 憲司	S63	森川 潔	H16	島尾 聡
S43	増田 浩三	H1	森田 圭祐	H16	花岡 孝圭
S43	安田 一夫	H2	安達 謙一	H16	柳原 淳史
S44	高柳 仁見	H3	永田(伊藤) 晶子	H17	濱本 博行/由希子
S46	大野 正宣	H6	池本 徹	H18	市村 修平
S46	塚本 幸雄	H6	山田 章生	H18	白坂 浩明
S46	萩原 健治	H7	藤本 誠一	H18	中積 一仁
S46	松永 泰博	H9	小島 武士	H18	平野 隆仁
S47	倉橋 公生	H9	長谷川 利通	H18	藤森 稔人
S48	上原 隆司	H10	小西 啓介	H19	藤 裕一郎
S51	木下 幸典	H10	齊藤 英孝	H19	柳田 一樹/茉莉
S53	金沢 聡	H10	竹内 俊之	H19	柳本 寛之/紗美
S53	高室 和彦	H10	秦 誠一郎	H21	北村 直義
S53	田村 好司	H10	古谷 将彦	H21	熊 礼
S54	井垣 篤司	H10	本田 弦	H21	牧原 光章
S54	北山 隆	H11	石田 寛	H22	植松 尊之
S54	渋谷 武	H11	桑原 崇	H23	岡本 竜一
S55	清水 耕史	H11	福島 圭吾	H23	三本木 秀樹
S56	新井 典幸	H12	川上 晋	H23	深澤 寛明
S56	大倉 広継/佐代子	H12	前田(柳原) 由紀子	H23	武川 弘樹
S56	小林 宏行	H14	岩佐 拓己	H25	梶木 友輝
S56	手塚 整廣	H14	阿部(陰地) 昭子	H25	林 智之
S58	平山 正則	H14	嘉田(山田) 亜貴子	H25	吉村 陽介
S59	坂下 雅弘	H14	河野 友己	H27	神所 佑希
S59	津阪 敏夫	H14	常藤 剛史	H29	大友 健裕
S59	宮田 俊明	H14	原田 明德	H29	御田 友貴
S60	出原 圭二	H14	平野 勝久	H29	海田 将秀
S60	小西 敏之	H14	福廣 匡倫	H29	権田 拓也
S60	時岡 佳幸	H15	木邑 吏予子	H30	藪下 匠
S61	倉貫 博巳	H15	後藤 洋司	H31	小野 結衣
S61	田中 豊	H15	齊藤 寛子	H31	三輪 大祐
S61	塚田 武文	H15	重永 真理子	H31	吉岡 紳太郎
S61	永井 靖典	H15	鈴木 勝也	H31	与那覇 巧

(108名)

同志社大学体育会軟式野球部球友会会則

2017. 11. 25 改定、2018. 4. 1 施行

第1章 総則

第1条 本会は、同志社大学体育会軟式野球部OB OG会とし、「球友会」と称する。

第2条 本会は、OB OG相互間及びOB OGと現役学生部員との親睦を図り、同部及び同会発展の推進に寄与することを目的とする。

第3条 本会は、同志社大学体育会軟式野球部とその起源となる同好会に所属していた者をもって組織し、「球友会会員」と称する。

第2章 事業

本会は、第1章第2条の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 同志社大学軟式野球部に対する後援
2. 総会、懇親会の開催
3. 同志社大学に対する後援
4. その他、目的達成に必要な事業

第3章 役員

第1条 本会は、次の役員を置く。

1. 会長 1名
2. 副会長 1名以上

第2条 役員の仕事は、次の通りとする。

1. 会長：会の代表として、会の運営に責任を持つ。また、総会においては議長を務める。
2. 副会長：会長を補佐し、会の運営にあたる。また、会長がその仕事を務めることができないときは、その代わりを務める。

第3条 役員の選出は互選とし、総会で承認を得なければならない。

第4条 役員の任期は2ヶ年とし、再選を認める。

第5条 役員が何らかの事情により、任期の途中で交代せざるを得ない場合は、役員会に一任する。(第8章の条項に従う)

第4章 監査役

第1条 本会は、監査役を1名以上置く。

第2条 監査役は本会の会計監査を行い、その結果を総会で報告する。また、会則が適正に運用されていることも監査し、必要に応じてその結果も報告する。

第3条 監査役の選出は互選とし、総会で承認を得なければならない。

第4条 任期は2ヶ年とし、再選を認める。

第5章 球友会事務局

第1条 本会は、「事務局」を置き、当会の運営全般と学生との調整役を務める。

第2条 事務局には、会長の指名により、球友会会員の中から事務局長1名と事務局員数名を置く。

第3条 事務局長は、会長の指示により、事務局業務全般を指揮し、その責任を負う。また、その業務内容については、必要な事項があれば適宜総会等で報告することとする。

第4条 事務局員は、事務局長の指示により、本会の総務と会計業務を行う。

第5条 会計担当は、総会で球友会に関する収支や会費等の使途を報告しなければならない。

第6条 事務局長は、総務又は会計担当業務を兼務することができる。

第7条 事務局長と事務局員の任期は2ヶ年とし、再任することもできる。

第6章 その他の役職

第1条 本会には第3、4章に定めた役職以外に以下の役職を定める。

1. 顧問 必要に応じて設定
2. 幹事 各年代1名

第2条 顧問への就任、任務等は以下の通りとする。

1. 本会の運営等について球友会会員のほか、特に必要と認められる者が就任することができる。
2. 就任には総会の承認を必要とする。
3. 本会の運営等について助言等を行う。
4. 任期は2ヶ年とし、再任することもできる。

第3条 幹事への就任、任務等は以下の通りとする。

1. 各卒業年度生から1名選出し、その選出には各卒業年度生に一任する。
2. 任期は定めない。しかし、交代するときは必ず事務局に報告しなければならない。
3. 幹事は、球友会会員間の連絡の中心を務め、円滑な本会の運営に努めなければならない。
4. 4回生は卒業する年度末までに事務局に届け出なければならない。
5. 会長が必要と認めたときは、幹事会を開催することができ、積極的な参加が求められる場合がある。

第7章 総会

第1条 総会は年2回、現役学生の春季、秋季リーグ終了後に開催する。

第2条 会長が必要と認めたときは、第1条の他に臨時に開催することができる。

第3条 総会は次のことを報告、審議決定する。

1. 事業報告（会計報告）
2. 重要案件の決定
3. 役員を選出
4. 会員の入会、退会
5. 会則の改廃および追加
6. 軟式野球部の活動報告
7. その他必要と認められる案件

第4条 総会での決定事項には、その球友会出席者の過半数を必要とする。

第5条 総会での決定が時間上間に合わない場合は、役員会に一任し、後日総会で報告しなければならない。

第6条 総会には現役学生も参加し、球友会会員と相互の親睦を図ることとする。

第8章 役員会

第1条 役員会は、本会役員で構成し、本会の執行機関として責任もってその運営にあたる。

第2条 役員会は、第7章第3条の項目以外の審議事項及び同章第6条の状況において、決定権を有する。

第3条 役員会での決定は、全会一致とする。

第4条 何らかの事情により、役員会がその機能を果たせない場合は、その機能が回復するまでの間、監査役と事務局が、その代行を務めることとする。

第9章 会費

第1条 球友会の会費は、球友会会員1名につき、年間6,000円とする。

第2条 第1条以外にも臨時に特別寄付を徴収することがある。

第3条 会費は、以下の項目に関することに使用する。

1. 軟式野球部の活動支援
2. 球友会の公式行事及びそれに類するもの
3. 第10章第1条及び第2条の事項
4. その他球友会活動に関すること

第10章 その他

第1条 球友会会員による同志社ユニオンや大学、諸連盟主催の公式行事や会議等への出席について、主要駅間の交通費に関しては役員会でその内容を検討のうえ、球友会より支援する。なお、宿泊費その他関連する費用については、原則適用外とする。

第2条 球友会会員死亡時は、役員会で協議の上、球友会より相応の対応を行う。詳細は以下の通りとする。

1. 原則対象は、本会及び軟式野球部の役職に就いている者とする。
2. 上記の一親等にあたる親族（配偶者・子）については、役員会の判断とする。
3. 上記1以外の球友会会員についても、役員会の判断とする。

以 上

編集後記

会報「新球友」第四十号発刊に際し、ご多忙にも関わらず、ご寄稿賜りました先輩諸兄・四回生の皆様、立命館大学の井浦様、部長の奥田以在教授、球友会会長の田村好司様、監督の手塚整廣様、コーチの塚本幸雄様、事務局の藤森稔人様をはじめ関係者各位の皆様、そして原稿集めや原稿整理に協力していただいた部員・マネージャー諸氏に心より厚く御礼申し上げます。

このような重要な冊子を作成するのにデータ編集の経験が一切なく、不安ばかりでございましたが、特に前任の四回生太田さんのお力添えのおかげで無事に第四十号「新球友」の発行が叶いました。本当に深く感謝しております。また、編集にあたる不手際により先輩諸兄にご迷惑ご無礼を多々おかけしましたことを深くお詫び申し上げます。何かと至らない点があるかと思いますが、この会報「新球友」を通して、部員の活動を身近に感じていただき、この軟式野球部の発展にご協力いただければ幸いです。

今後の発刊に際しましても「新球友」が永久に続き、皆様のご交流の役割に立つていくことを心より願っております。

「新球友」四十号

二〇二〇年十一月発刊

発行者 同志社大学体育会軟式野球部

編集者 古 谷 将 太

印刷所 株式会社 春日 京都支店

TEL (075) 361・6688

FAX (075) 361・7766